

1. 件名：原子力規制検査のためのリスク評価手法に関する東京都市大学との面談

2. 日時：令和2年10月13日（火）10時40分～12時00分

3. 場所：原子力規制庁 2階会議室（TV会議システムを利用）

4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

核燃料施設等監視部門

熊谷統括監視指導官、関主任監視指導官

技術基盤グループ 核燃料廃棄物研究部門

森主任技術研究調査官、寺垣技術研究調査官、横塚技術研究調査官

東京都市大学 原子力研究所 原子炉施設管理室長 他1名

5. 要旨

(1) 本年9月15日に実施した面談を踏まえ、核燃料施設を対象とした将来的な原子力規制検査のためのリスク評価の活用に向けた検討に資するため、東京都市大学（以下「都市大」という。）と面談を行った。

(2) 原子力規制庁から、原子力安全に係る重要度評価ガイド附属書9添付2「代表的な核燃料物質等の状態に応じた潜在的な危険性のレベル（例）」に記載したレベルの考え方や当該レベルはリスクではなくハザードを想定したものであること等を説明した。都市大から、核燃料物質は施設毎に核的制限値及び熱的制限値を定めており、核燃料物質を一つの指標で評価することが難しいことや、核燃料物質の取扱いが設計等で管理された施設であっても、予期せず核燃料物質が集積する等により想定外の事故が発生する可能性があるため、評価にあたって検討の必要性がある等の意見があった。

(3) 原子力規制庁は、本面談での説明内容を踏まえ、核燃料施設を対象とした将来的な原子力規制検査のためのリスク評価の活用に向けた検討を行うことを伝えた。

6. 配布資料

核燃料施設等の重要度評価（検討中の案）令和2年9月15日 原子力規制庁